

令和4年度 園評価書

園番号 3 園名 安倍口中央こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
自分で考えて行動する子	自分が好き みんなが好き	個々の思い(気づき、感じたこと、要求)に寄り添い認めていくことで、自信をもって自分の思いを表現している	安心して自分の思いが表現できるように、様々な感情を感じ取り、受け止めていくようにした。遊びや生活の中で、気づいたり感じたりしたことを言葉や身振り、表情などで保育者や友達に伝えている。	A	A	・全体として中間報告から比べA評価が多い ・職員が自信をもち各目標が達成できたことは素晴らしいと思う ・夏の研修から見えてきているが、職員が子どもの良い現れを引き出そうとする環境設定や、子どもを待つ働きかけができてきている。研修の積み上げの成果だと思う。職員が喜々として遊んでいる姿が良い。 ・課題として次に何をどうしていくか具体的に振り返るとよい	子どもの人数が少なく、丁寧な関わりができる。一人一人の思いに寄り添い認めていくことで、自信をもって自分を表現できるようにしていきたい。
		遊びの環境を整えることで、今までの経験を活かしながら「なぜ?」「どうして?」と試したり、考えたり、工夫して遊んでいる	今までの経験を活かすことができ、「～だったからこうしよう」と工夫する姿が見られた。試したり、考えたりできるような環境を整えたことで、子どもなりに考え工夫する姿が見られた。上手いかない時には一緒に考えるようにした。	A	A	・他機関の先生方から学んだことが生かされていくとよい ・登園時に同じ職員が受け入れてくれ、子どもも保護者も安心できる。子どもだけでなく、家族の体調を聞いてくれたり、日中の生活の度合いが伝えられたりすることがよい	「なぜ」「どうして」を試す過程で、上手いかないと諦めたり、興味が薄れたりしてしまう。子どもの姿や遊びを話し合い、遊びが継続できる環境づくりを行っている。
		友達が遊んでいる遊びの面白さに気付いて真似をしてみたり「どうなっているの?」と聞いたりしながら友達の良さに気付いている	個々の遊びを大切にしながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさが感じられる環境づくりをしたことで、友達、集団へと遊びが広がっていった。保育者が仲立ちをし、友達の発見や気づきが共有できるようにした。	A	A	・職員との待ち姿勢や出番が大事であり、子どもが主になり遊んでいるように思う	保育者の言葉がけで、友達の遊びに目が向き、面白さに気づけることもあるので、具体的にどのような言葉がけが有効か話し合いをしていきたい。

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園児一人一人の「育ってほしい姿」をふまえ、家庭や他機関と連携をとりながら個に応じた援助を行っている	園児数が少ない為、一人一人の成長に目が行き、その場に合った柔軟な対応ができた。小学校や保健センター、児童発達支援施設や静大ななど、他機関との連携をとり、個々に合わせた援助が行えるよう心掛けた。	A	A	・職員全体がチームになり、よりよい園にしようとする方向に向かっている ・子どもに寄り添っていることが分かる。子どもが主体的になって遊んでいることが、遊ぶ姿を見て分かる	園日より日々のボード、面談などで、こども園の教育・保育を発信しながら、保護者との信頼関係を深め、個々に応じた援助ができるようにしていきたい。
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	在園時間の異なる子どもの生活リズムを踏まえて、穏やかな気持ちで過ごせるような生活や遊びの流れができています	A	A	・他機関の先生方から学んだことが生かされていくとよい ・登園時に同じ職員が受け入れてくれ、子どもも保護者も安心できる。子どもだけでなく、家族の体調を聞いてくれたり、日中の生活の度合いが伝えられたりすることがよい	家庭での様子など、保護者と話をしながら大切なことは職員間で共有し、安心して過ごせる雰囲気づくりや環境づくりを行っています。
		(3)環境を通して行う教育及び保育	遊び出し、遊び中、遊び後で必要な環境や声掛けを考えタイミングよく行いながら、一緒に共有したり考えたりする時間を大切にしている	楽しく遊びだせるよう日々工夫し、導入を行った。子どもと一緒に遊び、見守る中で、気づきや発見を共有できるよう心掛けた。遊びの展開を考えながら、必要に応じた環境を整えるようにした。	A	A	・子どもの環境を整えず、遊びのルールを引いてしまわないようにしてほしい。必要な物を整えずにしまおうと、そうでないものを排除しながらである。子どもはそこにしか目がいかないため、「前にあるからやろう」と、操作されてしまう ・安倍川の状態を職員が知った上で取り入れていくようにしてほしい。「どういう力を伸ばしたいか」という設定やねらいに対しての手立てを考えていくとよい
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	避難訓練、不審者訓練の反省やヒヤリハットを記録し、課題を明確にすることで事故防止や安全確保に努めている	日中だけでなく、様々な時間帯の訓練を行うことができ、放送が入るとすぐ、子どもたちが机の下に入るなどの反応を見せた。また、ヒヤリハットを記入し打ち合わせなどで職員に報告、再発防止に努め改善策を取るようになった。	A	A	・安倍川の状態を職員が知った上で取り入れていくようにしてほしい。「どういう力を伸ばしたいか」という設定やねらいに対しての手立てを考えていくとよい	建物が古いため、注意すべき点が多々あると感じる。訓練で出た課題をクラスだけでなく園全体で周知し、役割確認や改善策を考えていきたい。
		(1)健康教育の充実	栽培・食育活動や手洗いや歯磨きなど、健康的な過ごし方を知り、自分の体に興味をもてるような環境を作っている	手洗いや歯磨きはやり方を丁寧に伝え、見届けるようにした。畑で野菜を育て、匂いを感じながらクッキングを行った。給食に使用する野菜の展示や、食材クイズ、保護者の方にも味見をしてもらう等、調理員の協力もあり食育活動が行えた。	A	A	・今年度、降園時の時間を利用し、親子でできるよつとしたイベントが多く、子どもたちも同じ体験や雰囲気を楽しむことが出来た。時期に合わせて草など展示しており、家族みんなで食育をしてもらっているようであった
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	加配担当者会議で話し合ったり、面談を行い支援計画を作成したりしながら、子どもの育ちや支援方法を職員で共有している	職員間で共通した支援ができるよう、特別支援について書籍の読み合わせや、ABC分析を利用したケース討議を行った。また、保護者面談を行い子どもの育ちや支援方法について保護者と共有を図った。	B	C	・今年度、降園時の時間を利用し、親子でできるよつとしたイベントが多く、子どもたちも同じ体験や雰囲気を楽しむことが出来た。時期に合わせて草など展示しており、家族みんなで食育をもらっているようであった	今後もABC分析を使った話し合いを行い、個々の支援方法を全職員で共有していきたい。テキストが活かしきれていないので、活用し支援児の理解に努めたい。
		(1)組織体制の充実	報告、連絡、相談をし意見交換を行いながら、保育教諭や調理員が自分の役割を意識して園運営に努めている	事務室や給食室も子どもの関りについて報告・連絡・相談がしやすい体制であり、毎日の打合せなどで情報を共有している。また、会議の中で、職員が意見を交換し合うことで、保育への意識が高まった。各職員が自分の役割を意識し、園運営に努めている。	A	A	・支援児と担当の関係性は出来ていたのかと感じてしまうことがあった。面談を行っているが3か月後のレベルアップが見られなかったり、伝達の行き違いがあったりした ・担当してくれる職員によって伸び幅が変わるため、どの職員でも援助できるようにしてほしい ・研修の成果は充実してきているように思う。体制の面では、職員全体につたえることは不可能に近いと思うが、いかにマイナスを取り除いていけるか考えていけるとよい ・地域に土地がたくさんあるのでも若い人たちが越して来られるように、市が受け入れ態勢を整え、子どもの増加方法を考えてくれるとよい ・共有という面で中間報告の時と同じ反省になっているように思う。具体的にどうしていくかを考えていかないと来年度も同じ結果になってしまう
6 研 修	(1)研修体制の充実	園内研修で学んだことや得たことを全職員で共有し重点目標や研修テーマの実現につなげている	園内研修で遊び改善構想の手立ての有効性や、日誌にラインを引くなど記入の仕方について検討した。職員の子どもの見取る意識や子どもへの関わり方が変わり、子どもたちの成長が見られた。	A	A	・今年度、降園時の時間を利用し、親子でできるよつとしたイベントが多く、子どもたちも同じ体験や雰囲気を楽しむことが出来た。時期に合わせて草など展示しており、家族みんなで食育をもらっているようであった	今後も、グループワークを行い、意見を出し合える園内研修を行ってほしい。また、時間を設け、会計年度職員にも内容を周知できるようにしたい。
		(1)教育・保育環境の充実	教材研究を行いながら遊びが創り出せる環境を整え、好きな遊びを十分に楽しむための工夫や時間の保障を行っている	木の実や河原の石など、子どもが遊びに取り入れられるようにしている。今年度は、エコエデュや環境委員が来園し、自然物を使用した遊びを子どもと一緒に学ぶことが出来た。	B	B	・今年度、降園時の時間を利用し、親子でできるよつとしたイベントが多く、子どもたちも同じ体験や雰囲気を楽しむことが出来た。時期に合わせて草など展示しており、家族みんなで食育をもらっているようであった
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	写真を使いながら日々の保育や子どもの良さを伝え、園児の育ちや学びを家庭と共有している	保護者に言葉だけでは伝わらない子どもの表情や姿を、写真で知らせることが出来た。また、保育のねらいや子どもの成長を書き入れることで、園の教育・保育について知ってもらい、子どもの育ちや学びを共有するようになった。	A	A	・共有という面で中間報告の時と同じ反省になっているように思う。具体的にどうしていくかを考えていかないと来年度も同じ結果になってしまう	今後も、子どもたちの可愛い姿だけではなく、「10の姿」をふまえた学びや育ちが共有できるような写真と作品の掲示を考えていく。
		(1)近隣の園との連携の推進	近隣園と散歩に出かけたり、給食参観や公開保育、公開授業に参加したりすることで、情報を共有し連携を深めている	近隣小学校や近隣園と参観会や公開保育を行い情報の共有を図った。また、年長児は学校探検に出かけ就学への期待を高めた。近隣園と合同で幼児組運動会を行った。互いの園庭を行き来したりするなど交流を深めることが出来た。	A	A	・今年度、降園時の時間を利用し、親子でできるよつとしたイベントが多く、子どもたちも同じ体験や雰囲気を楽しむことが出来た。時期に合わせて草など展示しており、家族みんなで食育をもらっているようであった
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	自分たちが住んでいる地域に親しみを感じ豊かな生活体験が得られるよう地域資源を生かしながら挨拶をしたり交流を図ったりしている	安倍川の自然を生かし、遊びに取り入れている。安倍口サロンでお年寄りにダンスなどを披露したり、手作りカレンダーや収穫した野菜を届けたりし交流を深めた。また、散歩でアカデ美和や児童館を利用させてもらった。	A	A	・今年度、降園時の時間を利用し、親子でできるよつとしたイベントが多く、子どもたちも同じ体験や雰囲気を楽しむことが出来た。時期に合わせて草など展示しており、家族みんなで食育をもらっているようであった	感染症対策を行いながら、地域との交流を継続していきけるよう全職員が意識を持続させたい。